

サルヴァドール・ダリとポストモダニズム —「シミュラークル simulacres」概念を中心に

内藤理子 (同志社大学)

ダリ(Salvador Dalí, 1904-89)が提唱した「偏執狂的・批判的方法」において、本発表が扱う「シミュラークル」が重要な役割を果たしている事を示し、モダニズムの芸術運動であるシュルレアリスムが、ボードリヤール(Jean Baudrillard, 1929-2007)のポストモダン論における主要概念である「シミュラークル」の先駆となった可能性を提示することを、この発表の目的とする。

1929年にパリ・シュルレアリストのグループに参加して以来、ダリは自身の出版物において、“paranoïa”(「偏執狂」)および“méthode paranoïaque-critique”(「偏執狂的・批判的方法」)といった用語と共に芸術理論を展開し、作品を制作した。発表者は、ダリが1938年にそのグループから除名されるまでの数年間、いわば「偏執狂的・批判的方法」の発展過程ともいえる時期の出版物において、“simulacres”(「シミュラークル」)という用語が頻出する点に注目した。例えば、ダリの出版物の中でもマニフェスト的なエッセイとして重要視されている“L'ANE POURRI”(「腐ったロバ」)(1930)において、「シミュラークル」は、「偏執狂的な思考によって出現し、現実に対して猛威を振るうもの」であると述べられている。ダリの絵画上の「シミュラークル」に関しては、コンスタンティンイドウの博士論文において、「偏執狂的・批判的方法」を用いて描かれた作品の中の、ある一つのイメージから生じる多様なイメージこそ、ダリのいう「シミュラークル」であるという指摘があるが、この点に関するダリ自身の明言はない。

近年、このダリの言及と、ボードリヤールにおけるポストモダン論的概念との関連が、デイヴィッド・ローマスによって取り上げられた。ローマスの2000年の研究において、この問題が取り上げられているのだが、数行に亘る言及に過ぎず、注釈においてジェレミー・スタブとの共著書でより明確な議論を行うとしている。そこで、本発表では2013年に出版されたその共著書の成果を元にして、ダリがモダニズムの芸術運動であるシュルレアリスムにおいて用いる「シミュラークル」と、ボードリヤールのポストモダン論における主要概念としての「シミュラークル」との関連性を考察したい。